



©Yuki Asada

## パッチワークで生活にアラブの彩りを

ギザのピラミッド、スフィンクス、砂漠を歩くラクダ…。歴史の教科書でなじみ深いこれらの“モノ”。アフリカ大陸の入り口、エジプトの代表的なモチーフとして広まり、私たちをアラブの世界へと連れていってくれる。

首都カイロでは、さまざまな形でこれらの“モノ”に出会える。週末、街中で開かれているバザーに足を運ぶと、ラクダなどがあしらわれたパッチワークのバッグが一。青年海外協力隊員の指導を受けながら、聴覚に障害を持つ人々が制作している製品だという。

チクチクチク…。首都郊外の教会内にある小さな工房に入ると、女性たちがせわしく手先を動かしている。「もう少し

し明るい色の布を使った方が女性受けするのでは?」。そう声を掛けるのは石井弘美隊員。障害者施設の職業訓練の一環として、エジプトの伝統工芸であるパッチワークの小物の商品開発、技術指導を担当している。

「耳に障害がある分、彼女たちの色彩感覚や手先の器用さには驚きます」と石井さん。お客さんに喜んでもらえる製品を作ろう!と、最近はみんなで子ども服の制作に挑戦しているところだ。

きめ細やかなデザインと鮮やかな色どりのパッチワークは、外国人観光客にも大人気。日本での生活に“アラブのテイスト”を加えたい人にはぴったりのアイテムだ。



石井さんが大切にしているのは“みんなで”取り組むこと。施設の人々との信頼関係も厚い

★クッションカバー、化粧ポーチ、バッグを各1人にプレゼント!→詳細は38ページへ

